

令和元年6月24日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03320

研究課題名(和文) アジア・太平洋秩序のトランスナショナル・ヒストリー - 「文化国際主義」の挫折と再生

研究課題名(英文) A Transnational History of Asia-Pacific Order: The Setback and Regeneration of "Cultural Internationalism"

研究代表者

中嶋 啓雄 (NAKAJIMA, Hiroo)

大阪大学・国際公共政策研究科・教授

研究者番号：30294169

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,070,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は第1次世界大戦後からおおむね1960年代までを対象に、戦争をはさんで展開したアジア・太平洋地域における「文化国際主義」の展開を、当該地域の国際秩序との関係において、その枠組みを再検討しつつ、様々な事例について実証的に解明した。4年間に亘り、毎年、海外から研究協力者を招へいし、当初の3年間は年3回のワークショップを開き、最終年度は研究の総括として、すべての研究分担者、海外からの研究協力者が出席して、国際ワークショップ(使用言語：英語)を開催した。その成果は既に学術論文、学術書あるいは分担共著として発表されているが、ワークショップの成果をできれば英文で公刊すべく準備を進めている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題は国際主義的民間団体、民間財団、知識人や学生からスポーツ関係者まで、広く文化に関わる団体や人間が、在住地域(本研究の場合はアジア・太平洋地域)の国際秩序形成にどのように関わったのかを、歴史研究として具体例に則し、実証的に検証した点に学術的・社会的意義がある。

国境を越えた文化交流や文化の伝播を推進する意志、すなわち「文化国際主義」の展開が、戦争をはさんだ20世紀のアジア・太平洋秩序とどのように関係したのかを、米日英豪といった関係諸国の一次史料を用いて解明し、イスラームと国際政治、ポピュリズムと排外主義といった今日の文化と国際関係の交錯にも示唆するところの多い研究だと自負している。

研究成果の概要(英文)：This research empirically shed light upon various cases reexamining the framework of the unfolding of "cultural internationalism" in the Asia-Pacific sandwiching the war in connection with the international order of the region. It concentrated on the period right after World War I to the 1960s.

For four years, we invited researcher(s) from abroad organizing three workshops a year for the first three years. In the last year, we held international workshop conducted in English and attended by all the researchers involved in the project. The results have been already published as scholarly articles and book or book chapters. In addition, we are planning to publish the papers presented at the last workshop as a book in English.

研究分野：国際関係史

キーワード：トランスナショナル・ヒストリー 「文化国際主義」

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

近年、グローバル・ヒストリーやトランスナショナル・ヒストリーの重要性が国内外の学界で叫ばれるようになり、アジア・太平洋地域についても 1920 年代半ばから 1950 年代にかけて活動を展開した国際主義的民間団体、太平洋問題調査会 (Institute of Pacific Relations, IPR) 等に焦点を当てて、国家間関係のみに限定されない当該地域のガバナンスを考察する研究が盛んに行われるようになった。

そうしたなかで、この分野の第一線で活躍する海外在住の研究者 3 名を交えて、日本においてアジア・太平洋地域のトランスナショナル・ヒストリーを推進する気鋭の研究者 4 名と研究代表者を中心に、研究グループを組織した。そして、アジア・太平洋地域のガバナンスを大きく動揺させたアジア・太平洋戦争をはさみながらも展開した、20 世紀前半から半ばにかけての「文化国際主義」(入江昭)の挫折と再生を、国際共同研究を通じて明らかにすることを企図した。

#### 2. 研究の目的

国際会議を含む国境を越えた知的交流、民間交流や日米学生会議、日比学生会議といった国際理解教育、さらには国際スポーツ・イベントの開催まで、様々な領域における文化国際主義の具体例を実証的に考察し、それらを総合的に把握することで、アジア太平洋地域の国境を跨いだ諸活動が、20 世紀における当該地域の秩序形成とどのように関係したかを解明する。

#### 3. 研究の方法

海外在住の研究協力者 3 名は、それぞれ北米 (アメリカ合衆国本土)、大洋州 (オーストラリア)、ハワイの大学に勤務しており、そこに国内在住の研究者が加わることによって、アジア・太平洋に存在する諸地域・諸国家の多様な視点から、20 世紀のアジア太平洋秩序を実証的に検証した。日米英豪といった諸国の外交文書等、公文書や、この時代の文化国際主義的活動に資金を提供したロックフェラー、フォード、カーネギーといったアメリカの「大財団 (big foundations)」の一次史料に基づく各自の実証研究を、年 3 回開いたワークショップで共有し、最終年度には全メンバーが出席する国際ワークショップを開催して、各自の個別研究をさらに深めると同時に、討論を通じて、それらの総合を試みた。

#### 4. 研究成果

5. に示したとおり、太平洋問題調査会 (IPR) の活動に関係する諸事象や戦前日本のプロパガンダや「国民外交」、それとも密接に関連する通信社等、当時の重要なメディアと国際政治との関係、またアジア・太平洋地域における学生交流やスポーツを通じた諸国民の関わり、あるいは時代を遡って明治から大正にかけての渋沢栄一の民間外交について、研究組織の各構成員が実証的な研究を積み上げた。第 2 次世界大戦後についても、戦後、日本の知的交流の中心となった財団法人・国際文化会館や同会館の創設・運営に尽力した国際派ジャーナリストの松本重治、松本もその一群に含まれる第一世代の日本のアメリカ研究者が日米知的交流において果たした役割等、また、そういった活動を助成したロックフェラー、フォードといったアメリカの大財団の活動、さらにはアメリカにおける黄禍論と日本のアジア主義について、一次史料に基づく研究を雑誌論文や著書 (共著を含む) のかたちで公表した。

そうした過程で国際文化学会の共通論題部会「日米知的交流における戦前・戦後の断続」を組織したり、各自が個別に日本国際政治学会の部会、アメリカ学会の 50 周年記念シンポジウム等で成果を発表した。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 15 件)

三牧聖子「ヨーロッパ知識人がみた知と権力 - ハンス・J・モーゲンソーとスタンリー・ホフマンのアメリカ知識人批判」『アメリカ研究』査読有、53 巻、2019 年、99~116 頁

佐々木豊「太平洋問題調査会アメリカ・カウンシル (米国 IPR) と日中戦争」『太平洋問題調査会』についての予備的考察 満州国バンフ会議参加問題を中心に」『アジア太平討究』査読有、35 巻、2018 年、14~29 頁

高光佳絵「戦間期カナダ外交における『太平洋問題調査会』についての予備的考察 満州国バンフ会議参加問題を中心に」『アジア太平討究』査読有、35 巻、2018 年、3~13 頁

Yoshie Takamitsu, "Improving US-Japan Relations through the News Media: Roy W. Howard, Dentsu, and the Osaka Mainichi," *Japanese Journal of American Studies* (査読有), no. 29, 2018, pp. 113-137

三牧聖子, "Non-Governmental Organizations and Origins of Asia-Pacific Regionalism: The Institute of Pacific Relations (IPR: 1925-1961)" 『アジア太平討究』査読有、35 巻、2018 年、55~70 頁

高光佳絵「『太平洋問題調査会』ソ連支部の設立と米ソ関係」『渋沢研究』査読有、29 巻、2017 年、3~20

佐々木豊「『近代化論』構築前夜のアメリカ政治学 社会科学研究所評議会の比較政治委員会の活動を中心に」『研究論叢』(京都外国語大学) 査読有、87 巻、2016 年、83~105 頁

( <https://kufs.repo.nii.ac.jp/> )

高光佳絵「戦間期における国際通信社と国際政治 岩永裕吉、クリストファー・チャンセラ  
ーと日英関係」『人文社会科学研究』(千葉大学) 査読有、32 巻、2016 年、14~25 頁  
( <http://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/?lang=0> )

高光佳絵「松本重治の民間国際交流と国家間関係」『W I A P S リサーチシリーズ 太平洋問  
題調査会 ( I P R ) とその群像』 査読有、6 巻、2016 年、33~50 頁

高光佳絵「戦間期の民間外交と国際政治の民主化」『歴史評論』 査読有、789 巻、2016 年、  
59~73 頁

中嶋啓雄「歴史的視座から見たアメリカ学会」『アメリカ研究 別冊』 査読有、50 周年記念  
特別号、2016 年、11~25 頁

三牧聖子「『孤立主義』アメリカの外交構想力 - 大戦間期アメリカの戦争違法化運動」『立教  
アメリカンスタディーズ』 査読無、38 巻、2016 年、1~17 頁

三牧聖子「アジア太平洋地域における国際関係論の発展 ジェームズ・T・ショットウェル  
とその批判者を中心に」『W I A P S リサーチシリーズ 太平洋問題調査会 ( I P R ) とその群像』  
査読有、6 巻、2016 年、151~62 頁

佐々木豊「第二次世界大戦中の連合国の戦後処理構想 「リベラルな国際主義」に基づく戦  
後秩序の制度設計とその遺産」『研究論叢』(京都外国語大学) 査読有、85 巻、2015 年、1~23  
頁 ( <https://kufs.repo.nii.ac.jp/> )

〔学会発表〕(計11件)

高光佳絵「日本の広報外交と渋沢栄一」渋沢研究会、2018 年

Yoshie Takamitsu, "Japanese Public Diplomacy and Media before World War II,"  
Australian Historical Association Conference, 2018

Seiko Mimaki, "Jane Addams and Her Cosmopolitan Ethics," Symposium "The Living  
Legacy of First World War," 2018

高光佳絵「国際文化会館をめぐる戦後日米関係」国際文化学会、2017 年

中嶋啓雄「アメリカ研究者と日米知的交流」国際文化学会、2017 年

Hiroo Nakajima, "From Inter-Imperial Relations to Transnational Connections: A Case of  
Japan's Intellectual Interchange," Nodes, Networks, Orders: Three Global History  
Workshops on Transformative Connectivity (Leiden University), 2017

高光佳絵「国際的民間団体と日本外交 『太平洋問題調査会』の第2トラック的側面を中心  
に」日本国際政治学会、2016 年

中嶋啓雄「歴史的視座から見たアメリカ学会」アメリカ学会、2016 年

高光佳絵「企業人の国際的人脈と国際関係」日本国際政治学会、2015 年

高光佳絵「岩永裕吉と中国をめぐる日英米関係」太平洋問題調査会 ( I P R ) 研究会、2015  
年

〔図書〕(計5件)

高光佳絵、中嶋啓雄ほか『国際交流に託した渋沢栄一の望み 国際交流を通じた世界平和へ  
の希求』(飯森明子編) ミネルヴァ書房、2019 年近刊 (第5章「日露戦争後の「民主化」潮流  
への対応における渋沢栄一の苦闘 メディアの活用から国際通信社設立へ」、第3章「渋沢栄  
一と米国のフィランソロピー」担当)

廣部泉『人種戦争という寓話 黄禍論とアジア主義』名古屋大学出版会、2017 年、292 頁

三牧聖子ほか(共著)『安達峰一郎 日本の外交官から世界の裁判官へ』(柳原正治・篠原初  
枝編) 東京大学出版会、2017 年 (第6章「安達峰一郎とアメリカ 日米協調のもう一つのシ  
ナリオ」)、127~146 頁

中嶋啓雄ほか『グローバルヒストリーと戦争』(秋田茂・桃木至郎編) 大阪大学出版会、2016  
年、79~105 頁 (第3章「太平洋戦争後の知的交流の再生 アメリカ研究者とロックフェラー  
財団」担当)

三牧聖子ほか『公論と交際の東アジア近代』(塩出浩之編) 東京大学出版会、2016 年、237  
~258 頁 (第8章「『理性的な対話』による平和 太平洋問題調査会の試みとその限界」担当)

〔産業財産権〕

出願状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：佐々木 豊  
ローマ字氏名：SASAKI, Yutaka  
所属研究機関名：京都外国語大学  
部局名：外国語学部  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：00278748

研究分担者氏名：廣部 泉  
ローマ字氏名：HIROBE, Izumi  
所属研究機関名：明治大学  
部局名：政治経済学部  
職名：専任教授  
研究者番号（8桁）：80272475

研究分担者氏名：高光 佳絵  
ローマ字氏名：TAKAMITSU, Yoshie  
所属研究機関名：千葉大学  
部局名：国際教養学部  
職名：准教授  
研究者番号（8桁）：10334591

研究分担者氏名：三牧 聖子  
ローマ字氏名：MIMAKI, Seiko  
所属研究機関名：高崎経済大学  
部局名：経済学部  
職名：准教授  
研究者番号（8桁）：60579019

### (2)研究協力者

研究協力者氏名：サユリ シミズ グスリエ（清水さゆり）  
ローマ字氏名：SHIMIZU GUTHRIE, Sayuri

研究協力者氏名：トモコ アカミ（赤見友子）

ローマ字氏名：AKAMI, Tomoko

研究協力者氏名：ジョン サース ダヴィダン

ローマ字氏名：DAVIVANN, Jon Thares

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。